

春 秋 新



もやいすと講座 in 阿蘇

※詳細は、P2・3をご覧ください。

目次

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 2・3 「もやいすと」育成プログラム | 10・11 就職状況・就職支援 |
| 4～6 学部紹介 | 12 卒業生からのメッセージ |
| 7 お知らせ | 13 学生の声・サークル便り |
| 8 キャンパス・ニュース | 14・15 後援会便り |
| 9 国際交流 ほか | 16 行事予定、Information |

SYUNJUSAI
熊本県立大学・学報

2006.11
VOL.25

特集：「もやいすと」育成プログラム

熊本県立大学では、熊本の豊かな自然や文化、人と自然との関係を理解し、地域課題の解決に集団的創造の心で取り組むスペシャリスト「もやいすと」を育てることを目指した体験的キャリア支援教育を「もやいすと」育成プログラムとして昨年度から実施しています。

このプログラムは、モデル地域において、県機関や市町村、NPO団体と連携しながら、農業等の実習体験や社会活動、環境のフィールド調査等を通して、地域の多様な課題を認識・発見し、解決方法を提案する能力を習得します。

今年度は正規の授業科目として、世界最大級の阿蘇カルデラをフィールドに「もやいすと講座in阿蘇」を実施しました。

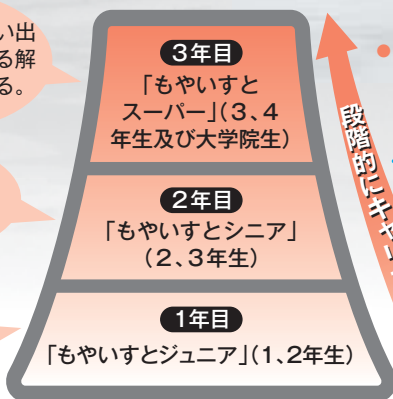
到達目標

地域の課題を見出し、それに対する解決方法を提案する。

地域の課題について、認識発見する。

地域の現実の課題に触れ、地域を正しく理解する。

コース名(主な対象)



取組

- 「もやいすとジュニア」コース活動の学生派遣のマネジメント業務支援、「もやいすと」育成プログラムの情報発信
- 「もやいすとジュニア」コース活動にリーダーとして参加
- 地域理解を中心とした学習（「新熊本学」、フィールドワーク等）

※「もやい」とは、元来、船をつなぐことや人々が集まって、一緒に何かを行うことを意味します。熊本では水保病に関連して、人と人や、人と自然との関係を作り直すことを「もやい直し」と呼んできました。そこで、本学ではこうした協働ができるスペシャリストを「もやいすと」と命名し、人材育成の目標としています。

●キックオフミーティングでスタート

8月12日(土)、「もやいすと講座in阿蘇」に先立ち、キックオフミーティングを行い、プログラムリーダーである古賀副学長が、「もやいすと」育成プログラムの趣旨説明と阿蘇の自然について講義しました。



さらに、総合管理学部の宮園助教授から、「地域デジタル情報の収集発信の技法」と題し講義を行い、学生は、デジタルカメラやパソコンを使用したデジタル情報の収集・処理・活用方法を学び、「もやいすと」育成プログラムでの活動を記録していくことにしました。

●もやいすと講座in阿蘇

9月20日(水)

から22日(金)に行われた講座には、学生41名(「もやいすとジュニア」コース32名、「もやいすとシニア」コース9名)教員等スタッフ17名が参加しました。

スケジュール

1日目：講義及び現地視察

- ①「阿蘇の環境」講義及び現地視察（ゴミ再資源化施設、不法投棄現場）
- ②「阿蘇の言語」・「阿蘇の文学」・「阿蘇の歴史」の講義

2日目：体験実習と意見交換

- ①農業体験実習と実習先での交流・自然観察会
- ②学長講話「地域活性化と阿蘇」・イブニングセッション

3日目：発表、視察、体験学習

- ①レポート作成・プレゼンテーション
- ②阿蘇神社・草千里・そば打ち体験等

もやいすとジュニア コース

一日目は、阿蘇の自然・歴史・文学などについて講義を受けました。二日目は、米の収穫や畜産などの農業体験実習と自然観察会に参加し、夜は、米澤学長から「地域活性化と阿蘇」と題した講話を受けました。

学生たちは、活動から学んだことや今回の講座について意見交換を行い、最終日には今回の研修で学んだことについて発表を行いました。



「もやいすとジュニア」 コースに参加した学生の声

●美しい自然が阿蘇にはたくさんあるが、その反面、農業の後継者不足や、不法投棄など多くの問題が発生していることを実感した。多くの人が阿蘇の素晴らしさや実態を知り、今以上に興味を持つことが必要だと感じた。

●体を動かす仕事を体験し、仕事の意義を考える大きなきっかけになった。

もやいすとジュニア コース

昨年度同プログラム「もやいすとジュニア」コースに参加した学生は、今年度は「もやいすとジュニア」コースに参加し、小国町を訪問しました。

一日目は、地域学習・交流施設「木魂館」において、町職員の方から町の地域特性や同町が取り組んでいる九州ツーリズム大学の説明を受けた後、町内の施設や観光資源について現地調査しました。二日目には、様々なまちづくりの取り組みを行っている地元の方にお話しを伺い、意見交換を行い、最終日には、「もやいすとジュニア」コースの参加学生に対し、シニアの取り組みについてプレゼンテーションを行いました。



●今後は、さらに追加調査やデータ収集を行ったうえで、小国町のまちづくりについて年度内に提言をとりまとめる予定です。

●なお、小国町と本学は、今年8月に包括協定を締結しています。(P9参照)

まとめ

今年度の取り組みを検証しながら、「もやいすと」育成プログラムの充実を一層図ります。学生が自ら課題を認識・発見し、それらの解決方法を地域に提案できる人材育成プログラムの開発を目指して、県内各地域でこの取り組みを展開する予定です。学生の皆さんの積極的な参加を希望します。



地域を見る確かな「眼」を

学長 米澤 和彦

本学は「地域に生き、世界に伸びる」大学、すなわち地域に根ざし世界に向かって大きく羽ばたいていく、そういう優れた人材の育成を目指しています。この「もやいすと」育成プログラムは、まさにその中核のひとつです。

地域に生きるためには、まず地域を知らねばなりません。それも単なる知識のみではなく、現地に出かけ、そこで様々な実習を通して自らの問題として考え、習得することが必要です。そのことによって地域における諸問題に対応出来るスペシャリスト、すなわち「もやいすと」が生まれるのです。

私は、今回の阿蘇での講話の中で、「地域づくりは地域の宝さがしから」という話をしました。地域には多くのすばらしい宝が埋もれています。皆さんの若い感性でこれらを発見して下さい。それは地域の活性化であると同時に、皆さんの地域を見る「眼」を確かなものにしてくれるに違いありません。

文学部フォーラム

「シェイクスピア万華鏡」

「人間というものはなんと靈妙にできたものである。理性に高貴、才能に無限、形も動きもすぐれて美しい。挙止は天使のごとく、智慧は神を想わせる」(「ハムレット」)

待望の文学部フォーラム、題して『シェイクスピア万華鏡』を12月16日(土)に開催します。

当日は、大谷大学助教授の芦津かおり氏を講師に迎え「日本の『ハムレット』受容―その多様な変貌」と題し基調講演を行います。文学部からは難波助教、清水助教、坂井講師らが発表及びパネルディスカッションを行い、シェイクスピアを熱く語ります。

蜷川幸雄演出のシェイクスピア劇、あるいは、狂言師野村萬斎演じるシェイクスピアなど、今やシェイクスピアは私たちにも身近な存在です。日本・サブカルチャー・言語学―さまざまな観点からシェイクスピアを考えます。

- 日 時：12月16日(土) 午後1時～
- 場 所：熊本県立大学第16番講義室
- 参加費：無料
- 問い合わせ先：文学部英文資料室
TEL096-383-2929 (内線403)



研究室紹介



日本語教育研究室

馬場良二 教授

写真は、教育実習生を連れて中国の広西大学に行った時、私がさせていただいた授業の様子です。私は、文学部で外国人のための日本語教師を養成しています。



日本人であれば誰でも日本語を教えられる、というのも本当ですし、日本語が話せるからといって外国人に教えられるものではない、というのも事実です。身近にいる外国人から教えてくれと頼まれることがあるかも知れません。そうしたら、お茶でも飲みながら、気軽に話してみましよう。少しずつ、自然に身につけてくれることでしょうか。一方で、「買い物に行きませんか?」という誘いを断る時、「いいえ、行きません/行かないんです/行くわけにはいきません。」「ごめんなさい、今日は/ああ、行きたいんだけど」など、いろいろな言い方があります。これらの表現は何がどう違うのか、いつ、どのように使い分けるのか、日本人だからといって説明できるものではありません。

職業として日本語を教えることができるよう、日本語を客観的に分析できる、プロフェッショナルな教師を養成しています。

研究室紹介



比較文学研究室

難波美和子 助教授

「比較文学研究室」では、文学と社会の関わり方や、文化の表現としての文学が背負っている諸問題を研究しています。私の研究は(一)インドの昔話の話型研究に基づく比較文化、(二)19世紀インドのイギリス帝国による民俗学研究の形成とそれを担った植民地官僚の自己認識、(三)18・19世紀のイギリス文学にみられるインド表象です。文学研究の枠組みで言えば、「(ポスト)植民地主義批評」に強い関連性を持っています。

文学は存在そのものが極めて政治的なもので、他の社会的な思想と影響しあっています。その中で私が文学や社会を論じる上で重視しているのは、ジェンダー批評とクィア批評です。女性であり、男性であり、無限定の「私たち」は存在しません。「常識」なるものはどのような人たちに共有され、誰のための「当たり前」



ダーウィンの家。進化論は文学にどんな影響を与えたか?

なのか、常に問い直してみましよう。過去の「名作」だけではなく、まさに現在、生み出されたつつある文学を読むにも面白さが増すことではないでしょうか。

「環境共生フォーラム」

「のぞいてみよう！」
新しい木造建築の世界
—環境共生型建築をめざして—

環境共生学部では、12月9日(土)、「第10回環境共生フォーラム」を開催します。

今回は、居住環境学専攻が中心となり、木造建築の良さを再認識し、普及するフォーラムを目指します。



熊本県内にある木造建築(清和文楽館)を見学する学生

利用を目指し

教育研究の重点のひとつにしています。フォーラムでは、木造建築が地震にも強く、人の健康にもやさしい究極の自然素材であるだけでなく、新しい空間デザインが可能な材料であることとを、身近な例をあげながら紹介します。具体的には、木造建築の構造と空間デザインの立場から木造建築の優れた点を解説するとともに、学生が授業で取り組んだ作品について、日頃の教育研究の成果を発表します。

高校生をはじめ、豊かな空間デザインに興味のある方々は、ぜひご来場ください。

●日時：12月9日(土) 午後1時30分～

●場所：熊本県立大学 第17番講義室

●参加費：無料

●問い合わせ先：環境共生学部 辻原研究室

TEL096-3803-2020 (内線402)

研究室紹介



環境資源学研究室

大和田 紘一 教授

海の世界について深く学び、海の科学を実践する研究室です。

水産環境アセスメント実習(3年次の夏休み)では八代海(不知火海)に出て、海洋観測の実習を行い(写真)、この時に採取した海水試料の化学分析やプランクトンの観察を通じて海洋調査の実験をします。

研究室では、八代海の世界保全や再生に取り組んでいます。豊穡の海と言われた八代海ですが、これまでこの生態系に対してあまり科学の眼で研究が行われていません。そこで研究室を挙げてこの海の世界研究に取り組んでいます。毎年発生する赤潮、養殖漁場の環境悪化など、富栄養化現象を抑えるための手段として、アマモ場の再生や海藻群落を増やす試みも一つの例です。研究室の学生は、熊本県水産研究センターや地域の漁業協同組合、また芦北高校の学生と一緒に、豊穡の海を取り戻すための基礎的な研究を行っています。八代海を再び豊かな海に戻しましょう。



水産環境アセスメント実習での採水作業

研究室紹介



栄養生化学研究室

南 久則 教授

おいしく食べて健康・快腸



消化管は栄養素の消化吸収に大切な役割を果たしています。しかし消化管の役割は消化吸収機能だけではありません。消化管には全身免疫(骨髄や胸腺)とは異なる免疫機構(腸管免疫)が存在し、生体防御に重要な役割を担っていることが明らかになってきました。栄養生化学研究室では「食生活と腸管免疫」に焦点を当て、ストレス・炎症性腸疾患・腸内細菌・食品成分などと腸管免疫の関連を研究しています。例えば、ある種の乳酸菌を摂取すると、感染予防に重要な役割を果たす唾液中のIgAの分泌がヒトにおいて増加することを明らかにしました。これは乳酸菌の継続的な摂取が腸管免疫を活性化し、免疫力を高める可能性を明らかにした興味深い発見です。また、アントシアニンなどの食品成分が免疫機能に及ぼす影響も研究しています。今後は、このような知見を基に、免疫機能を変動させ健康増進に役立つ新規食品の開発に結びつけたいと研究室を挙げて取り組んでいます。

「e-ポートフォリオ」による
学習履歴記録の取り組み開始

現在、本学ではキャリアデザイン教育のあり方を検討しており、そのためのツールとして「e-ポートフォリオ（電子版ポートフォリオ）」（注1）の活用が議論されています。情報管理コースでは、この取り組みの一貫として「e-ポートフォリオ」システムを試験的に構築しました。松野、税所、津曲、飯村ゼミに所属する50名の2年生が、デジタルリテラシー（注2）向上を目的にした後期の合同ゼミで、各自が取り組むコンテンツと制作時の思考過程を「e-ポートフォリオ」に蓄積し学習記録として残していきます。後期終了時にはコース主催の作品コンテストがあります。学生たちはコンテストに向け「e-ポートフォリオ」を活用して自らを省察することで、それまでの学習内容を確実に定着させていくことが期待されます。



注1 「ポートフォリオ」は「紙ばさみ」を意味し、「e-ポートフォリオ」とは電子データによる「学習履歴ファイル」のこと。
注2 「デジタルリテラシー」とは、コンピュータの操作方法だけでなく、情報を発見し、その価値を評価し、整理して生産的な活動に情報を使える技術のこと。

研究室紹介

情報管理コース

宮園 博光 助教授



私の専門は、聴覚情報処理のモデル化、簡単に言うとな人間が音をどうやって聞いているのかの解明です。我々は音声や音楽などから、さまざまな情報を得ています。しかし、耳から入った音が鼓膜を振動させた後に、どのように処理されているかについては不明な部分が多いのです。その情報処理の解明は、聴覚に障害を持った人々の補聴器や人工内耳（耳の内部に移植する聴覚代行装置）に役立ちます。

現在、私はイギリスのケンブリッジ大学・実験心理学部・聴覚研究室にいます。ここは人間の聴覚を心理学的に研究する所で、主に聴覚に障害を持った人々のための実験や解析が行われています。

私はこの研究室で、人間の音の高さ、知覚に対する聴覚の時間特性に関する研究を行っています。音は聞き方によって感じも内容も変わってきます。時間的にどんな聞き方をしているのかを実験で測定し、応用できる形にするのが研究の目的です。



ケンブリッジ大学へ行く途中のキングスカレッジの前にて

研究室紹介

パブリックアドミニストレーションコース

上拂 耕生 講師

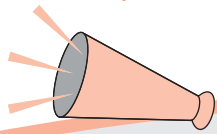


私の専門は、行政法という法律学の一つです。行政法は、法律学の中でも

も、民法や刑法のように暮らしの中で実感できることの多い法分野と比べて、普通に暮らす人にとっては「役所」に関わるときでもなければ意識しないですむかもしれません。しかし、生まれる前（例、母子健康手帳の交付から死んだ後（例、墓地埋葬法）まで）、行政法はおよそ市民の一生に密着しており、また、税金・公衆衛生・教育・福祉・まちづくりなど、私たちが市民の日常生活は行政法に取り囲まれています。ただ、学問としての行政法は、（日常生活に密着に関わっている）膨大な行政法令を個々に取り扱うよりも、そのような行政法令に共通する指導原理を抽出することに比重が置かれています。私の研究室では、そのような指導原理の理解に努めた上で、私たちの日常生活に身近な問題について、行政法的思考をもって解決できるように日々勉強しています。



ゼミの光景



お知らせ

●セクシュアル・ハラスメントについてのアンケート調査結果

4月から6月にかけて学生及び教職員を対象に実施しました「セクシュアル・ハラスメントに関するアンケート」について、集計結果を取りまとめ8月に公表しました。

詳細については、大学ホームページの「お知らせ・議事録(学内専用)」のページ(<http://intwww.pu-kumamoto.ac.jp/intinfo/iinkai/sekudara060817/sekura.htm>)に掲載しています。

もしも、セクハラ等でお悩みの方は、相談員、または保健室の保健師(内線216)までまよわずご相談ください。

◆問い合わせ先 総務課 内線255

●学生による授業評価アンケート集計結果

教育を受ける学生の声を参考に、より良い大学教育へと改善するため、平成11年度から授業評価アンケートを実施しています。

平成18年度前期の授業を対象に実施したアンケート結果について、速報値集計結果を取りまとめました。

学部単位でのアンケートの集計結果は大学ホームページの「教務入試課からのお知らせ」のページ(http://www.pu-kumamoto.ac.jp/kyoumu/kyoumu_bulletin/kyoumu_bulletin.htm)に掲載しています。

なお、学生の方は、授業別の集計結果(平成17年度後期分)が閲覧できます。

●閲覧場所：図書館1階受付カウンター
※持ち出しはできません。

●閲覧方法：学生証を提示。

◆問い合わせ先 教務入試課 内線218

●就職情報検索WEB開設



10月25日から、本学への求人情報をインターネット上で検索閲覧することができる就職情報検索WEBを開設しました。

ぜひ、就職活動にご活用ください。(このサービスの利用は本学の在学生に限られています。)

就職情報検索WEBアドレス：

<http://www.pu-kumamoto-support.jp/pc/>

◆問い合わせ先 学生支援課 内線205

●留学生との交流会について

海外からの留学生と日本人学生及び教職員との交流を深めるための交流会を開催します。本学の学生であれば誰でも参加できます。ぜひご参加ください。

●日時：12月20日(水) 午後6時～

●場所：熊本県立大学第2大会館
学生食堂

●内容：留学生紹介、ゲーム等(軽食あり)

●参加：無料



◆問い合わせ先 学生支援課 内線205

●公立大学法人熊本県立大学設立(4/1)

3月17日に総務大臣及び文部科学大臣から設立の認可を受け、4月1日、公立大学法人熊本県立大学が発足。



「公立大学法人熊本県立大学」の看板除幕

看板は、平成18年3月に本学総合管理学部を卒業した新進気鋭の書道家武田双龍さんの揮毫によるものです。

●平成18年度入学式(4/6)

平成18年度入学式が熊本県立劇場で行われ、学部生499人(文学部93人、環境共生学部106人、総合管理学部300人)及び大学院生61人(文学研究科6人、環境共生学研究科25人、アドミニストレーション研究科30人)の計560人が入学しました。



入学式

●授業公開講座開講式(4/7)

授業公開講座の受講生の方々約150人が参加。

●法人化記念シンポジウム開催(4/29)

大講義室を会場に、法人化記念シンポジウム「大学の楽しさ・豊かさ・大切さ」を開催。高校生を中心に約450人の方が参加。

●日経「大学の地域貢献度ランキング」調査で本学が全国13位(6/6)

日経産業消費研究所が行った「大学の地域貢献度ランキング」調査において、熊本県立大学が全国の国公立大学中13位、公立大学では全国2位、

熊本県内の大学では1位という結果が発表されました。(平成18年4月～5月実施、全国の国公立大学135校が回答)

●平成17年度後期成績優秀者表彰式開催(6/8)

成績優秀者の表彰制度は、学業が優秀な学生を表彰し、学生全体の勉学への意欲を喚起することを目的として実施しているものです。

表彰式は、1年・2年合同で行われ、文学部8人、環境共生学部7人、総合管理学部28人の計43人に対して、米澤学長から表彰状と記念品を授与しました。



表彰式

●オープンキャンパス(7/30)

県内外の高校生や保護者、高校教諭など約2300人の

来場がありました。各学科・専攻毎に趣向を凝らしたプログラムで模擬授業・模擬実習を行いました。



オープンキャンパスでの模擬実習

●キャンパスギャラリーで学生が制作した作品を展示・公開(7/30)



キャンパスギャラリー(正門側)

オープンキャンパスを契機に、学内の展示スペース(正門及び西門近くの2カ所)をリニューアルし、本学を志望

する方はもちろん、地域の皆様にも公開し、本学の教育研究活動をお知らせしていくとしました。

トピック 軟式野球部 全国大会出場



5月28日に藤崎台県営野球場で行われた「九州地区軟式野球選手権大会」決勝戦で本学軟式野球部は、九州看護福祉大学を5-3で破り、第29回全日本大学軟式野球選手権大会への出場を決めました。

4年ぶり5回目となった全国大会は、8月6日から地元熊本県の藤崎台県営野球場などを会場に開幕し、本学軟式野球部は、初戦、専修大学と対戦しましたが、残念ながら敗退しました。

多くの皆様から暖かいご声援をいただき、ありがとうございました。

今後とも、皆様のご支援をよろしく願います。

国立台北科技大学 学術交流協定締結

熊本県立大学では、姉妹提携校である大韓民国・祥明大学校や学生交流協定締結校であるアメリカ合衆国・モンタナ州立大学ボーズマン校及びビリングス校など、海外の大学との交流を進めるなど、「世界に伸びる大学」に向けて国際交流の輪を広げています。



6月29日には、環境共生学部 篠原亮太教授（写真左）の尽力により新たに国立台北科技大学と、相互理解と関係強化の推進のため、学術交流に関する協定を締結することができました。今後は、学生が相互に訪問し、数ヶ月単位で共同研究を行うなどの学術交流を推進していきます。

留学生から一言



太田 憲成さん
（環境共生学研究所
博士前期課程 2年）

8月から6カ月間の予定で台湾に滞在し、国立台北科技大学と共同で路面上に蓄積している多環芳香族炭化水素（発ガン性物質を含む）の調査研究を進めています。

文化の違い等で戸惑うことが多々ありますが、新しい発見や驚きのある充実した日々を過ごしています。

祥明大学校 短期研修団来学

本学の姉妹提携校である大韓民国・祥明大学校の短期研修団が6月から7月にかけて本学を訪れました。日本語等の授業をはじめ、浴衣の着付けや茶道などの日本文化を体験するとともに、ホームステイ等を通じて学生との盛んな交流が行われました。

日本語授業の一つとして、7月5日には月出小学校の5・6年生との交流、6日には研修団の学生が日本語で韓国について紹介する「韓国旅行プレゼンテーション大会」が行われました。



月出小学校での交流

「もっこすプラン2006 —中期計画及び平成18年度年度計画—」を策定

「地域に生き、世界に伸びる大学」を目指し、平成18年度から平成23年度までの実施計画である「公立大学法人熊本県立大学中期計画」を作成し、7月31日に熊本県知事の認可を受けました。

中期計画の認可を受け、その計画的な推進のために、平成18年度に実施すべき事項を定めた「平成18年度年度計画」を作成し、8月2日、知事に届け出ました。

〈中期計画とは〉

（1）知事から示された中期目標を達成するために法人自らが作成する計画です。

（2）計画期間は、平成18年4月1日から平成24年3月31日までの6年間

で、大学の教育研究等の質の向上、業務運営の改善等6つの分野について、194項目の計画を定めています。

〈年度計画とは〉

（1）中期計画を受けて、法人が当該年度に実施すべき事項を定めたもので、公表することとされています。

（2）平成18年度年度計画の計画期間は、平成18年4月1日から平成19年3月31日までの1年間で、中期計画で定めた194項目のそれぞれについて、具体的な実施事項を記載しています。

なお、「中期計画」と「平成18年度年度計画」とが一体となったものを、「もっこすプラン2006」と呼ぶこととしました。これは、方言「もっこす」にちなみ頑固に達成していくというこだわりを「コンセプト」としたものです。

※「中期計画」「平成18年度年度計画」は、大学ホームページの「法人情報」のページに掲載しています。

〔包括協定〕

本学と自治体・企業等が地域の様々な課題解決のために協力することを目的として、包括協定の制度を整備しました。

この包括協定を交わすことにより、本学が掲げる地域実学主義に即した教育と研究のシステム開発を進め、教育研究の進化を図ります。

※10月末現在の包括協定の実績

締結日	協定締結先	主な取り組み
H18・7・21	富士電機システムズ株式会社	・モデル地区における環境活動の実施 ・環境等をテーマとした受託研究
H18・8・7	小国町	・新しい教育制度に係る研究プロジェクトの推進
H18・10・10	あさぎり町	・魅力あるまちづくりのための連携 ・リーダー研修・人材育成

就職状況

～先輩の進路、私の進路～

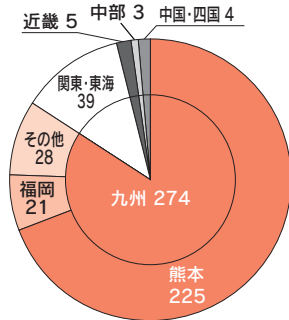
1. 就職状況(過去3年度)

進路状況		平成15年度							平成16年度							平成17年度						
		文学部		環境共生学部			総合管理学部	合計	文学部		環境共生学部			総合管理学部	合計	文学部		環境共生学部			総合管理学部	合計
		日本語日本文学科	英語英米文学科	生態・環境資源学専攻	居住環境学専攻	食・健康環境学専攻			日本語日本文学科	英語英米文学科	生態・環境資源学専攻	居住環境学専攻	食・健康環境学専攻			日本語日本文学科	英語英米文学科	生態・環境資源学専攻	居住環境学専攻	食・健康環境学専攻		
卒業生総数		40	34	20	35	40	276	445	37	50	19	36	38	279	459	38	31	24	38	44	283	458
1. 就職希望者数	就職希望者数	30	25	7	25	27	213	327	28	34	9	33	33	220	357	22	21	13	29	33	240	358
	決定者数	22	17	7	20	27	170	263	19	23	8	20	32	198	300	18	17	12	25	33	220	325
	就職率(%)	73.3	68	100	80	100	79.8	80.4	67.9	67.6	88.9	60.6	97.0	90.0	84.0	81.8	81.0	92.3	86.2	100	91.7	90.8
2. 進学希望者数	進学希望者数	3	3	12	7	7	6	38	1	4	9	3	3	13	33	8	4	7	8	8	5	40
	留学・その他	1	4	1	3	6	57	72	8	12	1	0	2	46	69	8	6	4	1	3	38	60

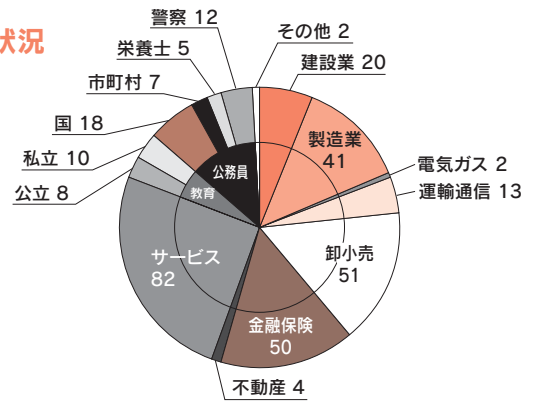
※就職率=決定者数/就職希望者数(就職希望者数は公務員志望者、教員志望者を除く)
 ※各年度3月卒業生数、9月卒業生は含まず

2. 地域別・業種別就職状況(平成17年度卒業生)

地域別就職状況



業種別就職状況



3. 主な就職先一覧(過去3年度のデータより)

文学部

日本語日本文学科

JALスカイ九州、第一生命保険相互、天草第一病院、日能研九州、コスモス薬品、日本生命保険相互、熊本赤十字病院、ヨネザワ、三祐観光開発、イエローブック熊本、鹿児島銀行、宣伝倶楽部、関西語言学院、ファーストリテイリング、肥後銀行、ニュースカイホテル、湖東カレッジ教育芸術専門学校、各県臨時教員、防衛庁、各市町村職員

英語英米文学科

エース出版、ANA、JALインターナショナル、日本エアコミューター、肥後銀行、熊本ファミリー銀行、鹿児島銀行、熊本信用金庫、肥後ビジネス開発、地域経済センター、Attackコーポレーション、中央出版、進陽プランクス、熊本放送、近畿日本ツーリスト、エフエム中九州、東京エレクトロン九州、私立学校教員、熊本県教員

環境共生学部

生態・環境資源学専攻
 熊本大同青果、三菱証券、みなまた環境テクノセンター、新産住拓、岩崎グループ、化学及血清療法研究所、黒木、パナファームラボラトリーズ、日本新薬、熊本リコー、西部環境調査、アクティブリサイクリング、中セキ九州、熊本ファミリー銀行、鶴城、日南農産、農業生産法人(有)長生園、興農園、あしかがフラワーパーク

居住環境学専攻
 興和ホーム、積水ハウス、フチカ、タマホーム、アイウッドダイワ、レオパレス21、嘉穂無線、向学社、穴吹工務店、エスケーパーホーム、鈴乃屋、大光電機、岩永組、呉建築事務所、ナショナル商事、タンコー、新産住拓、荏原冷熱システム、アネシス、ピーエス、松栄パナホーム、トキワ

食・健康環境学専攻
 ロフティ、栄食フードサービス、オタフクソース、エブリワン、寿製菓、アルファイン、熊本中央病院、レオック西日本、マルキン食品、熊本リハビリテーション病院、化学及血清療法研究所、近畿日本ツーリスト、天草慈恵病院、水俣市立総合医療センター、鶴田病院、人吉総合病院、国立病院機構九州ブロック、日清医療食品、市立高校教員、各県職員(管理栄養士、学校栄養士)

総合管理学部

総合管理学科

肥後銀行、熊本ファミリー銀行、熊本信用金庫、熊本第一信用金庫、鹿児島放送、JALインターナショナル、大韓航空、積水ハウス、センコー、名古屋鉄道、明治製菓、RKKコンピューターサービス、行政システム九州、トキワ、東京エレクトロン九州、熊本ゼロックス、トヨタカローラ熊本、日興コーディアル証券、野村證券、熊本中央病院、人吉総合病院、国立病院機構九州ブロック、日本郵政公社、熊本県教員、国家公務員(II種)、各県職員、各県警察官、各市町村職員

10月以降の就職支援 ～キャリアデザインのススメ～

■ 3年次就職支援イベント

10月 3年次就職ガイダンス

本格的に始まる就職活動を前に、就職活動の自覚と心構えや就職活動の進め方について説明します。

10月～平成19年1月(毎週火曜4限目) 就職セミナー

就職活動を行うための準備として、①自己分析、②業種・業界研究、③筆記試験対策、④エントリーシート対策、⑤面接・マンナ対策などについて説明します。

10月 就職対策ワークショップ

昨年度、結成された「OB・OG就職支援会」が本学学生への就職支援事業として行うもので、厳しい就職環境を戦うために、自分戦略を立てるスキルを提供します。

11月 やりたい事発見セミナー

リクルートの適職診断プログラムR-CAP受検者を対象とした、グループワーク形式のセミナーです。

2月 就職セミナー(週間)

就職活動の直前対策として、1週間集中して就職セミナーを実施します。就職セミナーのなかでは、自己PRセミナー、模擬集団面接、学内企業セミナー、公務員対策、模擬試験などを行います。

今年度は、県内企業の人事担当者によるパネルディスカッションを実施予定です。

2月・3月 福岡地区合同企業説明会

福岡地区で行われる合同企業説明会に、大学からバスを運行します。

■ 就職対策講座

公務員試験対策講座(3年生対象)※

開講時期:平成18年11月～平成19年4月

実績のある公務員受験予備校と提携し、良質な講義を安価に提供します。

※2年次の公務員志望者向けには、H19.5月～H20.4月に主要科目を中心に1年マスター講座を開講予定

一般教養講座開講(2・3年生対象)※

開講時期:平成18年11月～平成19年4月

実績のある公務員受験予備校と提携し、良質な講義を安価に提供します。

公務員志望の2年生、民間企業志望の2～3年生、進路未定の人にもおすすめです。

簿記検定講座(3級・2級)※

検定試験に向け、本学教員による講義形式で行います。1年生から受講できます。

2級建築士試験対策講座※

外部業者と提携し、良質な講義を安価に提供します。3年生から受講できます。

(注意)

※印の講座は後援会特別助成講座であり、後援会会員は特別価格で受講できます。

日程、申込み方法等詳細情報については、実施前に学内掲示等でお知らせしますので、各自で掲示を注意してご覧ください。

インターンシップ発表会

平成18年10月11日、大講義室で夏季インターンシップ発表会を開催しました。午後6時からの遅い時間にもかかわらず、学生、受入事業所の担当の皆様、副学長をはじめとする教職員に多数参加いただき、活気ある発表会となりました。

インターンシップに参加した約120名の中から6名が体験発表しました。学生は、「自分の至らない所に気づき、これからもっと意欲的に学ぼうと思うことができた」「体験してイメージと実際は違うということを知ることができた」などとそれぞれの感想を述べました。

受入事業所からも「大学で学んだことはいつか役に立つ」「勉強やいろいろなことに頑張ってもらいたい」などの意見をいただきました。

夏季インターンシップでは、全学部1～3年次を対象に123名を派遣しました。春季に申し込んだ学生が夏季に再度申し込むなど、それぞれの成果に手応えを感じているようです。本格的な就職活動の前に、社会の一端を経験することにより、職業のこと、自分の将来のことを考えるきっかけとして欲しいと願っています。

学生の参加意欲を高めるねらいで、今夏季よりインターンシップの単位を最大7単位(7回参加の場合)まで取得できるよう改訂しました。

発表者氏名 (カッコ内は派遣先事業所)

総合管理学部 猪俣雄也(熊本県庁)、文学部 船津昌子(熊本日日新聞社)、総合管理学部 酒井万優(熊本赤十字病院)、総合管理学部 中村有沙(肥後銀行)、環境共生学部 福田光俊(構造計画研究所)、総合管理学部 垣花真理(西日本システム建設)





朝日新聞松江総局勤務

上原 賢子 さん

(平成14年3月 総合管理学部卒)

私は就職先が決まらないまま、県立大を卒業した。いわゆる「就職活動」のお手本にはなれないが、進路に悩むみなさんの参考になることがあるとすれば、それは夢を追い続けた「しつこさ」かもしれない。

大学在学中も新聞記者を志望していた。だが、4年生だった01年の春と秋、卒業後の02年春も、マスコミの採用試験には一つもひっかからなかった。

肩を落として、郷里の長野県でハローワークに行った。地域紙「伊那毎日新聞」の記者という職をみつけた。そこに暮らす人たちを励ますことを目標に、地域の話題を無我夢中で取材した。全国紙や県紙に負けたくはなかった。

ところが次第に、地域の出来事が持つ意味や課題を、足元からだけではなく広い視野で考えたいと思うようになった。朝日新聞の社会人採用試験に挑戦したのは、就職してから2年半がたったころだ。面接では、「採用試験に落ちた以前の

自分と、今の自分はどこが違うか」と何度も聞かれた。多くの人と出会える取材の楽しさ、新聞記事は人と人とをつなぎ勇気づけることができること、読者の反応が次の取材

への力をくれること、などを話した。「伊那毎日新聞という会社は、君をこき使ったみたいだけど、いろんなことを勉強させてくれたんだねえ」と面接官に言われた時は、さすがにうれしかった。

昨年4月に入社、島根県の松江総局に配属され、今に至る。この半年間は、島根県の離島の病院から産科医がいなくなり、島でのお産ができなくなった問題に力を注いだ。誰のために、何を書いたらいいのか悩むこともあった。現場で出会う人たちの心と向き合い、その声を伝えることに務めた。8月下旬、島に産科医が戻った。「島で産めて本当によかった」。赤ちゃんを抱いた母親のほっとした笑顔が忘れられない。

実際に会社を移ってみると、記者という仕事の意味は、前職にいた時と変わりはないことに気づかされる。どこの会社で働くかではなく、どんな思いを持って仕事をするかが大切なのだということを、忘れないようにしたい。



学校栄養職員・

天草市立本渡南小学校勤務

森下 弥生 さん

(平成18年3月 環境共生学部卒)

私は学校栄養職員として、天草市の本渡南小学校に勤務し、本渡学校給食センターという大規模センターで約4500人分の給食を考えています。毎日バタバタと過ごしていますが、最近は少しずつ仕事が楽しくなり始めたところです。

私の就職活動はとにかく突っ走ったという感があります。この間何よりも大切だと思ったのが友達でした。同じ公務員試験を受ける友達はもちろん、研究室や食・健康環境学専攻、サークルの仲間の協力がなかったら、途中でエネルギー切れを起こしたと思います。みんなには今でも支えられています。また私にとって、試験の時期に忙しかったのも良かったと思います。時間があると逆に油断するし、上手くいかない実験でも、なぜか気分転換になったものです。試験対策のために時間を作るよりも、時間を上手く使う方が大事だと思います。

就職活動はいろいろな話を聞ける貴重な時期とも思えます。(今では滅多にそんな機会はないので。)企業の話はとてもエネルギーで元気が出るので、公務員志望の方も聞いて視野を広げてほしいです。大変だとは思いますが、体には気をつけて最後まで諦めずに頑張ってください!

学生の声



「県大生による夏休み子ども

作文教室」に参加して

文学部日本語日本文学科 3年

古賀 敦子さん



私たちが日本語日本文学科半藤研究室では、日本語学を専攻する学生として何か地域に貢献できることはないかと考え、後援会の援助も得て小・中学生を対象とした作文教室を「県大生による夏休み子ども作文教室 2006」作文なんてコワくない！」と題し企画し、今夏三日間の日程で実施しました。

初の試みということもあり企画段階から手探りの状態でしたが、学生一人ひとりが主体となり、話し合いを重ね、どのようにやれば子どもたちに言葉の持つ魅力や表現することの楽しさを伝えることができるかを念頭に置き指導法案を固めてきました。

最終日、出来上がった作文を抱えて「作文がとても好きになった」と嬉しそうにしている子どもたちを見て、私たちの方が子どもたちから熱意や元気をもらったように感じます。また、作文指導を通じて、私たち自身が語学に対する認識を深める貴重な経験にもなりました。

多くの課題も残しましたが、来年度へと企画をつなげていく上での土台づくりができたと思います。今回の反省点を考慮し、より充実した作文教室にできるよう邁進していきたいです。



作文教室

●サークル便り●

陸上競技部



こんにちは。
陸上競技部です。陸上競技部は今年が創部1年目となります。

「県立大学で陸上をやりたい！」という想いを持った人々が、現在の副部長の柏山さんの呼びかけのもと集まり、創部に至ることができました。

創部してまだ間もないですが、部員は26名います。練習日は火、水、木の週3回です。練習場所は、主に第二グラウンドとトレーニングルームを使用しています。最近では、部員のみなが自発的に練習に取り組むようになってくれました。

創部1年目で基盤が未完成ということもあって、試合にはまだ出ていません。しかし、これから長距離シーズンとなるので、少しずつですが地方の大会などに楽しみながら参加していきたいと考えています。短距離は、来年度の5大学総体等に向けての練習に取り組んでいます。

部活以外の活動については、先日行われたスペシャルオリンピックスに、ボランティアスタッフとして参加させていただきました。知的障害のある方に、陸上やその他の競技の楽しさを知っていただくお手伝いできたことは、非常にうれしく思います。

我々が陸上競技を楽しむことはもちろんですが、陸上をやったことがないという人にも、陸上の楽しさを少しでも伝えていけるようこれから努力していきたいです。



▲スペシャルオリンピックストーリーチャンのボランティアスタッフとして参加しました

環境共生学部
生態・環境資源学専攻 2年

部長 江里口 貴士さん

マンドリン部



こんにちは、マンドリン部です。僕たちは女子10名、男子1名の計11名で活動しています。週に2日合同練習を行っています。マンドリンはイタリアで生まれた弦楽器

で、その楽器を中心にして色々な楽曲に挑戦しています。

昨年度本格的に始めた、福祉施設や学校などでのボランティア演奏を主な活動としています。夏休みを中心に様々な施設から招いて頂いています。毎回好評を得ており、やりがいを感じています。

先日、カントリーゴールドに出演したグラスカルズというアメリカのバンドとの交流会が行われました。学校にはチャーリー永谷さんにも駆けつけて頂き、豪華な面々が揃っている中で僕たちはグラスカルズの歓迎演奏を行いました。部員みんなが緊張していましたが、なんとか演奏を終えることができました。その後グラスカルズの演奏を間近で見聞きでき、大きな刺激を受けました。今回得た刺激をこれからの活動に生かして行きたいと思っています。



▲チャーリー永谷さんとマンドリン部

文学部
日本語日本文学科 2年

部長 石山 友之さん

後援会便り

後援会とは、

- 本学在学生の父母またはこれに準ずる方を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をより向上させることを目的としています。

平成18年度後援会評議員会・総会の開催



去る6月26日に、学内で評議員会及び総会が開催され、評議員21名、会員156名の方に参加いただきました。今年度は会のはじめに蓑茂理事長が「日本の庭、世界の庭」と題し、小講演を行いました。また、総会終了後には各学部に分かれ、学部長はじめ教員数名と会員の方との懇談会が行われ、質疑応答等活発な交流が行われました。

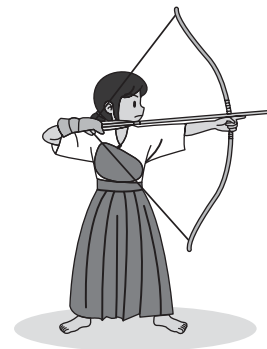
平成18年度(前期)の主な活動支援

1 就職対策

- ・公務員講座、各種資格取得講座等を実施（一部講座について、受講料を助成）
- ・夏休みのインターンシップ研修生等を対象に、ビジネスマナー講座（計3回）を実施
- ・R-CAP（適職診断プログラム・全学年対象）受検料を助成
- ・TOEIC®団体特別試験受検料の助成（会員学生は2,500円で受検できるようになりました。）

2 学生生活支援

- ・42サークル（文化系19、体育系23）へ助成
- ・白垂祭（学園祭）助成
- ・軟式野球部 全日本大学軟式野球選手権大会出場助成
- ・弓道部 全日本学生弓道選手権大会出場助成



3 国際交流推進

- ・モンタナ州立大学ピリングス校への短期留学・研修参加者（14名）へ助成
- ・祥明大スクールへの短期研修参加者（14名）へ助成
- ・ゼミ海外研修参加者（12名）へ助成
- ・海外で語学研修した学生（2名）へ助成
- ・祥明大スクールからの短期研修団と本学生との交流に係る費用などを一部負担
- ・留学対策講座（英語圏への留学を希望する学生対象）に係る講師報酬の助成

● 熊本県立大学内後援会事務局(内線237) ・ 学生支援課(内線204) ●

4 自主研究推進助成

学生グループが自発的に行う研究の経費や研究成果の具体化事業へ助成しています。
平成18年度は、企画書及びプレゼンテーションによる審査のうえ、次の11件を採択しました。

◎平成18年度 学生共同自主研究推進事業に採択された研究テーマ

所属学部	研究テーマ	参加学生数
文学部	美里町 恵照寺文書の位置づけに関する研究	27
文学部	地域に伝来する古典籍の調査・保存についての研究	18
文学部	県大生による夏休み子ども作文教室2006	11
環境共生学部	地域資源を活かした住民主体によるまちづくりの手法効果に関する研究	10
環境共生学部	学生による足湯製作プロジェクト-A. C. U	13
環境共生学部他	熊本県立大学に適したゴミ分別システム導入の実現に向けた取り組み	7
総合管理学部	地域密着型金融と地域金融機関のあり方について	7
総合管理学部	阿蘇の観光情報システム構築	11
総合管理学部	ゴミ行政研究グループ	6
総合管理学部	二次元バーコードを用いた総合管理学部資料室備品管理システムの構築に関する研究	7
総合管理学部	構内植物及び美術品の紹介サイト構築に関する研究	6

※後援会では、このほかに就職情報検索WEBサイトの運営や、就職支援セミナー、OB・OG懇談会の開催を支援するなど学生の就職活動、大学生生活全般を応援しています。

平成18年度事業の新たな動き

従来の資格取得講座等助成事業の助成対象資格に、簿記、システムアドミニストレータ、管理栄養士を追加し、またTOEIC®等の英語力向上に関する助成内容を拡充しました。

本年度に入り、助成を受けた学生数は下表のとおりで、既に昨年度（21名）を超えました。助成対象資格はこの他にもたくさんありますので、学内掲示をご覧になるか、後援会事務局にお問い合わせください。今後も申請をお待ちしています！

資格名	助成額	人数（平成18年10月末現在）
TOEIC®(650,730,800点以上)	3,000～8,000円※	9
TOEFL®(500,550点以上)	5,000～8,000円※	1
英検（準1級、1級）	5,000～10,000円※	2
簿記（2級、3級）	3,000円	11
福祉住環境コーディネーター	3,000円	5
食生活アドバイザー2級	3,000円	2
環境計量士（騒音・振動関係）	3,000円	1

※点数、等級により助成額が異なります。

平成18年度後期(2006.10~2007.3)行事予定

月	日	内 容
10月	2日	後期授業開始
	3日	3年次就職ガイダンス
	6日	インターンシップ発表会
	10日	あさぎり町との包括協定締結
	10日	3年次就職セミナー(毎週火曜日) (~1月23日)
	11日	インターンシップ発表会
	13日	OB・OGが贈る就職支援企画「就職 対策ワークショップ」
	13日 14日	チャーリー永谷とグラスカルズ訪問 大学院(文学研究科・アドミニスト レーション研究科)入学試験(秋季募 集)
11月	上旬	公務員講座開講(3年次H19.4月ま で)
	上旬	一般教養講座開講(2・3年次 H19. 4月まで)
	11日	学園祭「白垂祭」(~12日)
12月	上旬	就職活動支援セミナー(2年次)
	3日	特別選抜(推薦、帰国子女、社会人) 入学試験
	9日	TOEIC®団体特別試験 第2回
	9日	環境共生フォーラム(熊本県立大学研 究成果報告会)
	16日	文学部フォーラム「シェイクスピア万 華鏡」(熊本県立大学研究成果報告会)
	20日 24日	外国人留学生との交流会 冬季休業(~1月9日)
1月	10日	授業再開
	中旬	就職活動支援セミナー(1年次)
	20日	大学入試センター試験(~21日)
	29日	後期試験(~2月9日)
	29日	授業料第3期分引落日
2月	上旬	平成19年度(前期・通年)授業公開講 座受付
	3日	大学院(文学研究科・環境共生学研究科 博士前期課程・アドミニストレーシ ョン研究科)入学試験(春季募集)(~4日)
	13日	3年次就職セミナー(週間)(~19日)
	14日	特別選抜(私費外国人留学生)入学試 験
	16日	大学院(環境共生学研究科博士後期課 程)入学試験(春季募集)
	25日	一般選抜前期日程入学試験
	下旬	春季インターンシップ(1~2週間) (~3月)
下旬	祥明大・短期留学生派遣(1年間)	
3月	12日	一般選抜後期日程入学試験
	16日	卒業式(於:熊本県立劇場)
	25日	春季休業(~4月8日)

* 期日は変更となる可能性がありますので、学内掲示板
により確認するか、担当課までお問い合わせください。

Information

●図書館所蔵の文書(もんじょ)史料の 展示公開

図書館では、10月から館内に展示コーナーを常設し、
特別資料室に保存している文書(もんじょ)史料の一部
を3か月を目処に入れ替えながら展示公開しています。

現在、明治初期に白川県と呼ばれていた当時の熊本の
地図「白川縣肥後國熊本全図」など9点を12月下旬まで
の予定で展示しています。

展示物の概要は、大学ホームページ(<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>)でもご覧いただけます。

◆問い合わせ先: 図書館 (内線330)

●毎月19日は、「食育の日」です!

熊本県立大学では、「食育の日」にちなんで、これまで
7月と10月に、熊本県魚食普及推進協議会、JA熊本経
済連、ヤクルト(株)、一富士フードサービス(学食)のご
協力を得て、普段摂りにくい乳製品と果物をプラスした
「県大ランチ」を提供しました。

また、食品の安全性や健康になる食事バランス、生活
習慣病予防などについての情報を学生食堂内に掲示を
行ったほか環境共生学部食・健康環境学専攻の学生ボラ
ンティアによる食事バランスガイドの説明を行いました。

今後も、食に関する情報提供などに取り組んでいきます。
皆さんも普段の食生活を見直してみませんか?

◆問い合わせ先: 地域連携センター食環境研究情報室
TEL096-383-2929 (内線504)

「春秋彩」へのご意見・ご感想お待ちしております。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。いただいた
ご意見は、今後の学報編集の参考にさせていただきます。

〒862-8502 (住所記載不要)

熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行

FAX: 096-384-6765

E-mail: kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

■春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の詩書「春
山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採った
もの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に
富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学

発行: 熊本県立大学

〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号

TEL. 096(383)2929(代) FAX. 096(384)6765

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

R100

高配合率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH
SOY INK™

この印刷物は大豆インキを使用しています